



# 2022

# 国語

## 注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

後藤明良は中学校の男子バスケットボール部でキャプテンを務めている。彼は中学卒業後、バスケの強豪校に入学してインターハイに出場したいという思いを隠し、部活の仲間に合わせるふりをして日々を過ごしていた。そんなある日、バスケが強い中学校から転校してきた小杉が、彼らのチームに加わることになった。以下の文章は、明良とサブキャプテンの真野が、小杉の右手の捻挫について、彼と話し合いをしたあとの場面である。

「なんだよ小杉ルールって」

そのあと、真野と明良は、まだひとりで練習を続けるという小杉を置いて、学校をあとにした。

「いいじゃん、そのほうがうちのチームの練習に参加しやすいっていうんだからさ」

「っていうか、なんであいつにそこまでしてやるわけ？」

明良はあまりのバカバカしさに、怒る気力もなかった。

試合に勝ちたいとも、うまくなりたいとも思わないで、バスケを続けているチームメイト。このチームで練習しやすくするために、左手しか使わないという小杉。みんないったいなんのためにバスケをやっているのか、明良にはさっぱり理解できなかった。

「うーん、まあ、なんか放っておけないっていうか、さ……」

A 真野が照れたようにうつむいていた。

「あいつ、前の学校でチームメイトとうまくいかなくて、だから、今度はうまくやりたいんだよ」

B うまくやりたかったら、甘いとちがうやり方があると思うけどな」

明良には真野のやり方が、甘いと思えなかった。

「そういうの、うまくできるぐらいだったら、前の学校でだっとうまくやれてたよ」

「うーん、まあ、なんか放っておけないっていうか、さ……」

「捻挫のフリしてまで、うちにいたいんだから、受け入れてやろうよ」

明良には①それが面白くなかった。

「真野はやさしいな」

小杉を、素直に受け入れる気になれなかった。

「うちの I はおまえのほうか、ふさわしいな」

こんなチームにつきあうのも、うんざりだった。

「そんなことないよ。後藤は吉田よしだがキレたとき小杉と話してくれたじゃん」

その言葉に、小さく a が痛んだ。あれはただあの場にいたくなくて逃げにただけだし、小杉まじと話した内容だって、とても白状できない。

「ああいうの、メンバーとしてはうれしいもんだよ」

b が痛かった。

「うちのチームには、たのもしいキャプテンが必要だよ」

明良の気まずい気持ちなど Y 知るよしもない真野が、さわやかに続ける。

「この小杉ルールもさ、みんなよろこぶと思うよ。捻挫のフリをしてまでうちのチームにいたがつて知ったら、歓迎かんげいするよ。やめちゃったり幽霊ゆうれい部員になったりされるより、よっぽどうれしいよ」

「そうですか」

うなずいたものの、その言葉に、Z 投げやりな気持ちはかくせなかった。

「小杉ルールじゃ、後藤にはものたりないかもしれないけどさ」

明良はゆっくりと真野を見た。

「後藤は、インターハイ目指してるんだろ？」

「なっ」

それは、だれにも打ち明けていないはずだった。

②「なんでそれを……」

「小三のとき、作文で書いてたじゃん。僕の夢は死んだ父さんみたいにバスケットでインターハイにでて、医者になることすって」  
「そつ、そんなこと書いてたか？」

まったく覚えがないけど、小三といえればまだ無邪気に父さんの跡継ぎをよろこんでいたころだ。

「書いてた書いてた」

C 真野はケラケラ笑って、うなずいた。

「後藤って、スゲーなって思ったよ」

明良はどうフオローしていいかわからなくて、混乱した。

「そんな風に本気でバスケットやるつもりなのに、こんな弱小チームでオレらにあわせてくれて、おまけにキャプテンまでやってくれてるんだもん。これでも感謝してるんだよ」

真野の感謝の言葉は、明良を③ますます後ろめたい気持ちにさせた。

「じゃあ小杉ルールのことは、オレからみんなにいつとくから」

真野はそういうと、にこやかに手をふって、明良からはなれていった。

明良はそんな真野の後ろ姿を、ぼんやりと見送るばかりだった。

おふざけが好きなメンバーのひとりにすぎないと思っていたのに、たのみやすかったからサブキャプテンに選んだだけなのに、だれよりもチームのことをよく考えているし、よく見てる。

身体ならしのつもりで練習しているくせにキャプテンの肩書きを持ち、その役目を果たすフリをしてチームメイトを裏切ってきた自分とは、大ちがいだ。

「最低だな」

ふと、小杉にいわれた言葉がよみがえる。

D 確かに、最低だ。

「オレには、キャプテンの資格なんてないな」

明良はぼそりと声にだしてみた。急におかしくなって、笑いだす。

キャプテンどころか、バスケットをやる資格だってない。それなのにプロ選手を目指しているなんて、もうほんと、笑うしかない。

E だいたいプロ選手になるような人間は、こんなセクくない。ダサくない。こんなヤツ、だれも応援おうえんしない、あこがれない、仲間や友だちになるのだって、ごめんだ。

④ 背広を着たサラリーマンが、重そうなカバンを持って、明良を追い越こしていく。手ぶらでのろのろと歩いている自分の姿が、ひどく役に立たずに見えて、そつと目をそらす。

打ちのめされるというのはこういうことをいうのだな、とやけに冷静に思った。

「スゲー笑える……」

自分が、みじめで、情けなくて、おかしかった。明良はそのあと、家までの道のりをずっと小さく笑いながら歩いた。

(草野たき『リリース』による)

(注1) 小杉ルール：小杉が左手だけでプレーすることを認めるルール。

(注2) 小杉と話した内容：明良は、レベルの低い他の部員は放っておいて、二人で上手くなるうと小杉に提案した。

(注3) 小杉にいわれた言葉：(注2)のあと、明良は小杉にキャプテンとして最低だと指摘してきされた。

問一 空欄 a・b に入る体の部位を表す言葉を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 首      イ 足      ウ 耳      エ 腰      オ 頭      カ 胸

問二 波線部 X～Z の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

X あくまで

ア 楽観的に  
イ 徹底的に  
ウ 具体的に  
エ 持続的に  
オ 客観的に

Y 知るよしもない

ア 知るための時間がない  
イ 知ろうとする意欲がない  
ウ 知ろうとする理由がない  
エ 知るための手がかりがない  
オ 知るための元気がない

Z 投げやりな

ア 悲観的な  
イ 失礼な  
ウ 否定的な  
エ 無責任な  
オ 自己中心的な

問三 空欄Ⅰに入る適当な言葉を本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問四 傍線部①「それ」とありますが、「それ」の指す内容を五十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部②「なんでそれを……」とありますが、このときの明良の心情を四十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部③「ますます後ろめたい気持ち」とありますが、明良はなぜこのような気持ちになったのですか。その理由としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア やる気がないとあきれていたチームメイトに、将来の夢をほめてもらったから。

イ 小杉の味方をしていてチームメイトに、彼よりもキャプテンらしいと評価されたから。

ウ 心の底では見下していたチームメイトに、日々の感謝の思いを伝えられたから。

エ 小杉を受け入れようとするチームメイトに、彼への嫉妬を見抜かれてしまったから。

オ 一向に上達の見えないチームメイトに、自分の技術を過大評価されていたから。

問七 傍線部④「背広を着た く そつと目をそらす」とありますが、この部分の表現から読み取れる明良の様子はどのようなものですか。六十字以内で説明しなさい。

問八 明良が真野に対して抱いている印象の変化についての説明として、もっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 仲間意識のなさが目立つ選手から、自らのサポートを任せられる選手に変わった。

イ 仲間意識のなさが目立つ選手から、チームの様子をよく観察している選手に変わった。

ウ バスケへの取り組みが甘い選手から、小杉と三人で技術を高めあえる選手に変わった。

エ バスケへの取り組みが甘い選手から、自らのサポートを任せられる選手に変わった。

オ バスケへの取り組みが甘い選手から、チームの様子をよく観察している選手に変わった。

問九 点線部A～Eにおける表現の説明として、不適当なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 点線部Aでは、真野が過去の自身と小杉を重ね合わせている点を読み取れる。
- イ 点線部Bでは、小杉のふるまいに対して明良が批判的であることが読み取れる。
- ウ 点線部Cでは、真剣な中にも笑顔が見える真野の前向きな性格が読み取れる。
- エ 点線部Dでは、小杉の言葉が改めて明良の心に響いていることが読み取れる。
- オ 点線部Eでは、悲観的な言葉が続き明良の追い詰められている様子が読み取れる。

## 二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 私は「専門家のための」解説書や研究書はめったに買いません。つまらないからです。

しかし、「入門者のための」解説書や研究書はよく読みます。おもしろい本に出会う確率が高いからです。

「専門家のために書かれた解説書」には、「例のほらあれ……参ったよね、あれには(笑)」というような「内輪のパーティー・ギャグ」みたいなことが延々と書いてあって、こちらはその話のどこがおかしいのかさっぱり分からず、知り合いの一人もいないパーティーに紛れ込んだようで、身の置きどころがありません。

それに対して、「入門者のために書かれた解説書」はとりあえず「敷居が低い」のが取り柄です。どんな読者でも「お客さま」として迎えようという態度がそこには貫かれています。

解説書における②この「敷居の高さの違い」はどこから来るのでしょうか。

「内輪のパーティー」と、「だれでも参加自由のパーティー」の違いというだけなのでしょうか。それとも専門書と入門書では、書かれていることのクオリティが違うのでしょうか。

私は本質的な違いはそういうところにはないと思っています。



敷居の高さの違いは、「専門家のための書き物」は「知っていること」を軸に編成されているのに対し、「入門者のための書き物」が「知らないこと」を軸に編成されていることに由来する、と私は考えます。

専門家のための書き物は「知っていること」を積み上げてゆきます。

そこには、「周知のように」とか「言うまでもないことだが」とか「なるほど……ではあるが」というようなことばかり書いてあり、読むほうとしては「何が『なるほど』だ」と、しだいに怒りがこみ上げてきます。しかし、この怒りはゆえなきものではありません。私たちが苛立つのは、そこで「何か本質的なもの」が問われぬままに逸らされていると感じるからです。

それはTV中継で官僚の国会答弁を聞いているときの苛立ちにも似ています。官僚の答弁はたしかに専門的語彙と専門的知見に満ちあふれていますが、「そもそも政府とは誰のためにあるものなのか」とか「市場とは何のことなのか」とか「国際世論とは誰の意見のことなのか」といった、そこで現に語られている論題の根本になっているはずのことは決して問われることがありません。そういうおおもとのところに立ち帰って、現下の問題を根本的に検証しないとまずいんじゃないかと思うからこそ、私たちは官僚のつじつまは合っているけれど、誰に向かつて語っているのか分からないような答弁を聞くといらいらしてくるのです。

それに対して、「よい入門書」は、「私たちが知らないこと」から出発します。

よい入門書は「私たちが知らないこと」から出発して、「専門家が言いそうもないこと」を拾い集めながら進むという不思議な行程をたどります。（この定義を逆にすれば「ろくでもない入門書」というものがどんなものかも分かりますね。「I」から出発して、「II」を平たくリライトして終わりという代物です。私はいまそのような入門書の話をしているわけではありません。）

よい入門書は、まず最初に「私たちは何を知らないのか」を問います。「私たちはなぜそのことを知らないままで今日まで済ませてこられたのか」を問います。へ A へ

これは実にラディカルな問いかけです。

なぜ、私たちはあることを「知らない」のでしょうか？ なぜ今日までそれを「知らずに」きたのでしょうか。単に面倒くさかっただけなのでしょうか？ へ B へ

それは違います。私たちがあることを知らない理由はたいていの場合一つしかありません。へ C へ  
より厳密に言えば「④ 自分があることを『知りたくない』と知っていることを知りたくない」からです。

無知というのはたんなる知識の欠如ではありません。「知らずにいたい」というひたむきな努力の成果です。無知は怠惰の結果ではなく、

勤勉の結果なのです。へ D へ

嘘だと思ったら、親が説教くさいことを言い始めた瞬間にふいと遠い目をする子どもの様子を思い出して下さい。

子どもは、親が「世間話モード」から「説教モード」に切り替わる瞬間をしつかり見切つて、即座に耳を「オフ」にします。教師に対しても、バイト先の店長に対しても同じです。子どもは「大人の説教」をひとことでも耳に入れないために、アンテナを張り巡らし、「説教」の兆候がないかどうか、不断の警戒を怠りません。たいへんな努力だと思いませんか？へ E へ

もしも子どもが単に不注意で怠惰であるだけだったら、「ついうっかりして、親の説教を最後まで真剣に聞いてしまった」ということだって起こつてよいはずですが、でも、そんなことは絶対に起こりませんね。

あることを知らないというのは、ほとんどの場合、それを知りたくないからです。知らずに済ませるための努力を惜しまないからです。

X 「私たちは何を知らないのか」という問いは、適切に究明されるならば、「私たちが必死になつてそこから目を逸らそうとしているもの」を指示してくれるはずですが。

Y 、医学の専門書にはさまざまな病気のさまざまな治療法が書いてありますが、「人はなぜ老いるのか」「人はなぜ死ぬのか」という問いは主題的には論じられません。だって、誰もその答えを知らないからです。そして、それこそ私たちがそこから目を逸らそうとしている当の問いだからです。

Z 、真にラディカルな「医学の入門書」があるとしたら、それはおそらく「人はなぜ死ぬか」という問いから始まるでしょう。そして「死ぬことの意味」や「老いることの必要性」について根源的な省察を行うはずですが。病気の治療法や長寿法についての知識や情報は、そのあとに、その根源的な省察の上に基礎づけられるべきものだからです。

入門書は専門書よりも「根源的な問い」に出会う確率が高い。これは私が経験から得た原則です。「入門書がおもしろい」のは、そのような「誰も答えを知らない問い」をめぐつて思考し、その問いの下に繰り返し繰り返しアンダーラインを引いてくれるからです。⑤そして、知性がみずからに課すいちばん大切な仕事は、実は、「答えを出すこと」ではなく、「重要な問いの下にアンダーラインを引くこと」なのです。

知的探求は（それが本質的なものであろうとするならば）、つねに「私は何を知っているか」ではなく、「私は何を知らないか」を起点に開始されます。そして、その「答えられない問い」、時間とは何か、死とは何か、性とは何か、共同体とは何か、貨幣とは何か、記号とは何か、交換とは何か、欲望とは何か……といった一連の問いこそ、私たちがすべてにひとしく分かち合われた根源的に人間的な問いなのです。

入門書が提供しうる最良の知的サービスとは、「答えることのできない問い」、「一般解のない問い」を示し、それを読者一人一人が、自身の問題として、みずからの身に引き受け、ゆつくりと噛みしめることができるように差し出すことだと私は思っています。

(内田樹『寝ながら学べる構造主義』による)

(注1) ゆえなきもの…理由のないもの。

(注2) ラディカル…過激で根源的。

問一 傍線部①「私は『専門家のための』く、高いからです」とありますが、専門書が「つまらなく、入門書が「おもしろい」のはなぜですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 専門書はパーティ的な話題ばかりだが、入門書には私たちの知らないことがていねいに書かれているから。
- イ 専門書には論題の根本が書かれていないが、入門書は私たちが本来知るべきことから始められているから。
- ウ 専門書は専門的な言葉が多用され分りにくいが、入門書は平易な言葉で誰もがわかるように書かれているから。
- エ 専門書には説教みたいなことが記されているが、入門書には読者のオン・オフを許してくれる自由が備わっているから。
- オ 専門書には難しい論題で読者を分類するところがあるが、入門書には私たちをお客様として受け入れる腰の低さがあるから。

問二 傍線部②「この『敷居の高さの違い』はどこから来るのでしょうか、

(i) 「敷居の高さ」とは、ここではどのようなことを説明するための比喩ですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 相手にわざわざ聞くのが申し訳なくて入門しづらいこと。
- イ 初心者やる気にさせる、ていねいな説明がないこと。
- ウ 知識を守るため、外部には情報を教えてもらえないこと。
- エ 自分のよく知らない分野に入っていくにくいということ。
- オ 初歩的な解説で、ばかにされているように感じること。

(ii) 「敷居の高さの違い」はどこから来るのでしょうか。三十五字以内で説明しなさい。

問三 傍線部③ 「何か本質的なもの」とありますが、これを言い換えた表現を本文中から十五字前後で抜き出して答えなさい。

問四 空欄Ⅰ・Ⅱに入る適当な表現を、自分で考えてそれぞれ十五字以内で答えなさい。

問五 次の一文は空欄〈A〉〈B〉〈C〉〈D〉〈E〉のどこに入るのが適当ですか。記号で答えなさい。  
「知りたくない」からです。

問六 傍線部④ 「自分があることを『知りたくない』と知っていることを知りたくない」とありますが、これはどういうことですか。自分の言葉で分かりやすく言い換えなさい。

問七 空欄X～Zに入る言葉を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア しかし      イ 要するに      ウ 例えば      エ ところで      オ ですから

問八 傍線部⑤ 「そして、知性が      引くこと」なのです」とありますが、なぜ筆者はそう思うのでしょうか。六十五字以内で説明しなさい。

問九 本文の題名としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 良い入門書のあり方

イ 悪い専門書はどこがダメか

ウ 根源的な問いとは何か

エ 対話に見る親子関係

オ 知りたくない本当のわけ

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 開会式でコウゴウ陛下がお言葉<sup>を</sup>述べる。
- ② グラウンドを十周してもまだヨリヨクがある。
- ③ 冬に食べるための作物をチヨゾウする。
- ④ 江戸時代はコメダワラで年貢<sup>を</sup>納めていた。
- ⑤ 新型コロナウイルスにキク薬の開発に取り組む。

注意  
 字数制限の問題では、句読点も一字として数えます。



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

①	問九	問八				問七	問六		問五	問四		問三	問二		問一
							X				II	I		ii	i
②						Y									
③						Z									
④															
⑤															
<															

問九	問八	問七			問六	問五			問四			問三	問二	問一
													X	a
													Y	b
													Z	

受験番号	フリガナ
	氏名

得点	
----	--

②×5	③	⑧	②×3	⑤	③	③	③	③	④	③	④	④	④	⑦	④	⑥	⑦	③	②×3	②×2															
①	問九	問八				問七	問六		問五	問四		問三			問二		問一	問九	問八	問七			問六	問五			問四			問三	問二	問一			
皇后	ア	か	す	自	し	解	X	C	II	I	と	論	ii			i	イ	ア	オ	い	づ	い	キ	ウ	態	夢	誰		た	に	捻	キ	X	a	
②		ら	こ	分	て	答	オ		専	素	。	題	い	て	知	エ					と	か	、	ャ		に	を	に		ち	参	挫	ャ	イ	カ
余力		。	と	の	納	困			門	人		の	。	い	ら					自	さ	自	プ	(立派に働いているサラリーマンと比べ)	動	真	も		が	加	の	プ	Y	b	
③		の	問	得	難	Y			家	が		根		る	な				信	れ	ら	テ			揺	野	教		許	し	ふ	テ	エ	ウ	
		方	題	し	な	ウ			な	誰		本		こ	い				を	、	の	ン			し	が	え		そ	よ	り	ン	エ	ウ	
		が	と	て	問	Z			ら	で		に		と	こ				失	キ	責	と			て	知	て		う	う	を		Z		
		重	し	し	い				誰	も		な		を	と				く	ャ	任	し			い	っ	い		と	と	し		エ		
		要	て	ま	に	ア			で	知		っ		軸	を				し	プ	感	て			る	て	い	な		し	す	て		エ	
貯蔵		だ	緑	う	安				も	っ		て		に	軸				て	テ	の	の			。	い	い	い		て	る	、			
		と	り	こ	易				言	て		い		す	に				い	ン	な	自				、	て	は		い	小	チ			
		思	返	と	な			い	い		る		る	書				る	の	い	覚				、	ず		る	杉	ー					
④		っ	し	よ	答			そ	る		は		か	く				様	資	行	が				突	の		こ	を	ム					
米俵		て	問	り	え			う	こ		ず		と	か				子	格	動	足			然	将		と	、	の						
		い	い	も	を			な	と		の		い	、				。	が	に	り			の	来		。	真	練						
⑤		る	返	、	出			こ			こ		う	知					な	気	な			事	の			野	習						
効(く)								と				違	っ																						

国語 解答用紙

注意 一字数制限の問題では、句読点も

受験番号	フリガナ	
	氏名	

得点	
----	--